見つめる目
動かぬ瞳
フラスコをじっと見すえる
変化を見のがすまいとする心

メモする子
時間を計る子
変化を知らせる子
教師のことばは何もいらない
自然のうちの協力

窓の下に並ぶ植木鉢
並んで芽を出すチューリップ
ボール遊びに興じる子どもの
服装が軽くなる
日ざしの明るさ
別れの近いさびしさ
巡り来る春

〈春〉

３　月　号

昭和63年３月１日
発行／編集
岡崎市教育委員会

（お別れ給食 ― 男川小）

— 教育随想 —

目の高さ

鈴木和夫

植木屋は苗木を自分の目の高さに置いて、その表情をみつめるという。先生は生徒を遠くから眺めたり、見下ろしていたのでは、その心のうちは見えないということか。

掃除や、部活、はたまた廊下ですれちがう瞬間、生徒は授業中には発見しにくい素顔がある。先生はとかく自分の教科の中で、すべてを評価しかねない。言わずもがな、生徒は不得手な教科の先生にいい顔のできるわけがない。自然と不景気な気分になる。ごく自然な精神状態で生徒とかかわりあいを持ちたいと私は思う。例えば何気なく家庭訪問ができたり訪問を受け入れられるようになったら大したもの。家庭にまで入り込んで愚痴をこぼすのでなく、「ヨッ」と軽く声が掛けられる関係でありたい。

二年生の豊子さん宅を訪れた。たまたま豊子さんの父親が教え子であり、ここ数年病床に臥していると耳にしたからである。四十五歳という働き盛りをリュウマチで苦しんでいるという。なんでもこの病気は体中の関節がふくれあがり、ズキズキ錐でもむように痛むという。部屋を歩く人の震動はもちろんのこと、ラジオ、テレビの音まで激痛を誘うとか。

突然一家の主人を襲ったこの病魔は、家族みんなにどれ程困惑と悲しみを呼んだことか。何度も病院へ入退院を重ねたものの、少しも快方に向かうことがない。今はただ布団をかんで痛みを耐えるしかないという。

幸いにして丈夫で優しい奥様と二人の娘に励まされ、ともかくも療養できる幸運を感謝してみえる姿、私などと比べものになれぬ修養の深さに心をうたれた。

しばらくして豊子さんが帰ってきた。私の突然の来訪に戸惑いながらも、実に立派な挨拶ができたのには驚いた。すぐ勝手場へ入り、晩御飯の準備を始める。姉は市内指折りの高校を、優秀な成績で卒業されたという。父親の病気で進学を断念、大手の会社の研究所に就職。勉強好きで時間さえあれば机にしがみつく学問の虫、さすがいいところへ就職されたものとうなずく。妹豊子さんは、姉さんほど勉強が好きではない。でも、全身の痛みに脂汗を流して呻吟する父を、傍に腰を落ちつけて御飯を食べたこともない母を、また寸暇を惜しんで勉強する姉を見、自然に勝手仕事をすることに慣れてしまったのではないか。

父親は、「二、三年前までは、学校の成績だけで姉と比べ、叱責するばかりでした。近頃ようやく豊子が勿体ないくらいいい子であるとわかってきました。やがてよそ様にもらっていただくのには、豊子の方が本当は喜んでいただけるのではないでしょうか」と。

生徒のひとりひとりがどんな星の下に生まれ、どうもがいているか、教壇に立っているだけでわかるわけがない。生徒の胃袋も知らずに餌をばら撒いている私は、食べの悪さにいつも腹をたてている。こんな立派な生徒のいることも知らずに。

成績の優劣はともかく、体を使うことをいとわず、周りの人に勤める生徒のことは、やはりその子の側に佇まねばわかる筈がない。生きたひとりの心のうちを観るのは、生易しいことではない。

（前岡崎市中学校長会会長
岡崎女子高等学校　勤務）

数字のおけいこ

算数・数学科指導員
柴田　隆夫

「それでは数字のおけいこをします。」

「いち、に、さん、し、……、れい。」

「しち、ろく、さん、はち、……。」

授業のはじめの二分くらい、数字の練習をする。ノートの下三段を使って、先生の声に合わせて書く。速くしたり、ゆっくりしたりする先生の声の速さに合わせて数字を書く練習をしている。その日に書く数字が今練習したものより乱雑にならないようにしようというのである。

また、その日のノートを点検するとき、学習内容が理解できているかどうかを見るとともに、乱雑な数字を見つけ、ます目の下に赤ペンで三本の線を入れておく。先生にこれを書かれたら三回書き直し、再提出する約束になっているとか。

これは、O小学校、四年生担任のM先生が算数の時間にいつも実践なさっている数字のおけいこの様子である。

たった十文字しかない数字であるが、一度身についてしまった悪い癖を正しく

豆腐作り

平川　正雄　氏

ラッパ片手に自転車で売り歩く昔ながらの「豆腐屋さん」の姿を町角で見掛けることが少なくなった。そんな寂しさと懐かしさを胸に、篭田公園にほど近い創業明治四十五年富岡屋のご主人平川さんをお訪ねした。豆腐や油揚げの香りのたちこめる店内には大きな機械が並び、さながら近代的な工場を思わせる。

「父親が十八歳で始めた店も空襲で焼けてしまいまして……。戦地から帰ってきた私も、父の手伝いをしているうちに否応なしに豆腐屋を継ぐことになってしまったんですね。」

一つ一つ思い出を噛みしめるように語られる平川さんの心中が察せられる。

「終戦後、原料の大豆が統制によって思うように手に入らなかった時が一番苦しかったですね。しかし、ヤミ屋から買ってでもこの仕事を続けたいという父親の信念は今でも生きています。」

時の流れは、豆腐屋の形態をも変化させた。冷蔵庫の普及、流通機構の多様化、包装技術の進歩などによって、平川さんも経営の転換を迫られた。

「昔は、午前二時ごろに起きて豆腐を作り、運搬車で売りに回ったこともありました。滝、米河内から岩中の辺まで行きました。水を扱う仕事ですから、真冬は辛かったですよ。でも、世の中変わりまして、昔ながらの商売ではやっていけず機械を入れましたが、大切な部分では人間の長年の勘がどうしても必要になってきます。手作りの良さは残していきたいですね。」

世の中の状況を冷静に見、対応していく柔軟な考え方と、手作りの良さを残し、味を追究しようとする職人気質という二面を平川さんに見つけたような気がした。

最近、後継者難で店を閉めるところも多い中で、二人の息子さんが立派に平川さんの意志を継がれている。

「私の代で終わりかと覚悟していましたが、うれしいことです。」

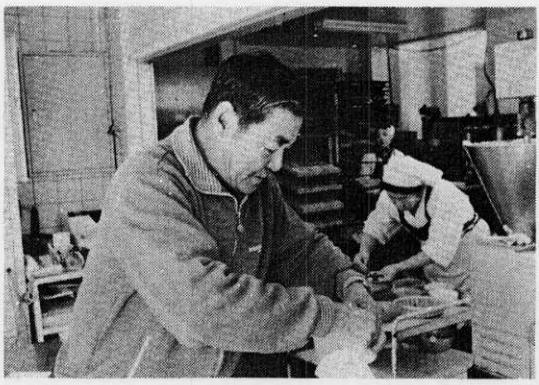
第一線を退かれた今も、豆腐作りへの意欲は衰えてはいない。

「長い間やっていても、毎日均一なものができるわけではありません。原料の質や豆乳の濃度などで微妙に違うんです。そこに難しさがあるんですが、逆に工夫もできるんです。だから、自分の店なりの豆腐を作ろうという職人根性はいつも持っていました。新しい豆腐作りのために女房と一緒に京都まで出かけて、嵯峨豆腐の研究をしたこともあります。」

新しい製品を追究する情熱や手作り豆腐のきめ細かな感覚など、我々教育に携わる者にとっては心しなければならないことを教えていただいた。

現在、市の豆腐組合の要職におられる平川さん、「豆腐は将来に飛躍する食品です。」と、ますます意気盛んである。

（生年月日　大正十二年四月十九日
住　所　岡崎市亀井町二丁目六番地）



やる気を起こす

視聴覚指導員　白井　正壮

プログラムを実行する。とたんに「ウォー」と男子の声。（メイボバンゴウヲ、ニュウリョクシテクダサイ）とパソコンが指示を出す。番号を入力する。すると（○○サン、フダンゲームデキタエタウデマエデ、ガンバッテクダサイ。）と表示される。とたんに「なんでこのパソコン、私の名前を知ってる？」と女子の感激した声。

中学校一年生、理科「合力の求め方」をパソコンを使って理解させる授業のひとこまである。

中学校には五十九年度から、八ビットのパソコンが導入され、部活動やクラブ活動ばかりでなく、授業で使うことを真剣に考えてみえる先生もいる。

台数は五台から十台、授業で使おうとすると少なくとも四人から六人のグループにしなくてはならない。ここに効率の悪さはあるが、生徒たちの目は画面にくぎづけられ、生き生きと学習に取り組む姿が見られた。

番号入力によるちょっとしたアイデアがやる気を起こし、真剣に学習に取り組む姿勢を作っていったのである。

直させるためには、何倍もの時間が必要となってくるわけである。

ひらがな、数字など基本的なことは、習いはじめの徹底が特に重要だと思う。

岡崎再見

59

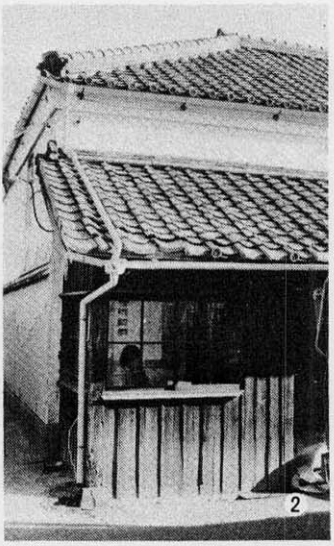
郷愁の建物

▲旧額田郡公会堂（朝日町）

新しいものは古くなり、形あるものは崩れる。これは自然の摂理であって、人の世も同じである。

焼け瓦の家は殆ど見られない。茅葺き草葺きの家も姿を消していく。昭和五八年発行「新編岡崎市史」（建造物）に掲載のいくつかがその後姿を消してしまっている。

現存する古き公共建物を訪ね、今一度それらの価値を見つめ直し、現況を見納めておくのも意義あることと考え、特集とした。建物のたたずまいや建築様式などから当時の時代相や願い、美意識などがしのばれる。



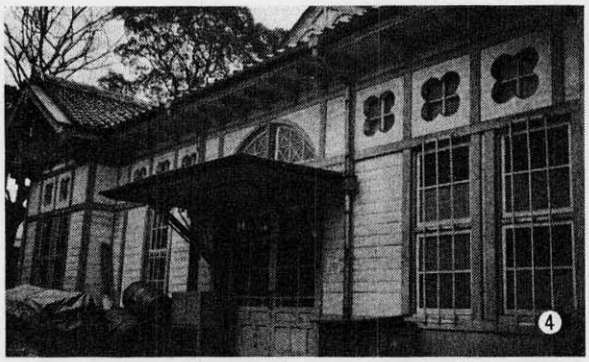
◀官営愛知紡績所（大平町）

① **大正2建** 岡崎市中央公会堂として文化的催物の場となる。昭和44年から市郷土館。対称的な構図や、内部のルネッサンス調の浮彫など洋風意匠への配慮が見所。

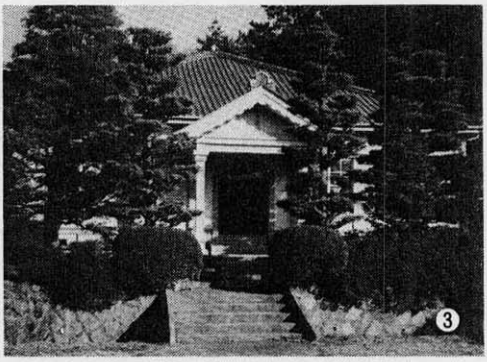
② **明治14建** わが国に二社のみの官営でスタートしたが業績不振のため5年で民間に払い下げられてしまった。現在、倉庫と水路にその面影を残している。

③ **明治40建** 大正14年戸崎町から日清紡績針崎工場内に移築。従業員の演劇、娯楽、式典、体育授業として活用。玄関の欠円欄間、柱など、洋風意匠が入念な建物である。

④ **大正2建** 商品の陳列所として建設。後に拳闘空手道場として使用。現在は郷土館の付属収蔵庫。クローバー型の花窓や両切妻からの内部採光など、内外見所が多い。



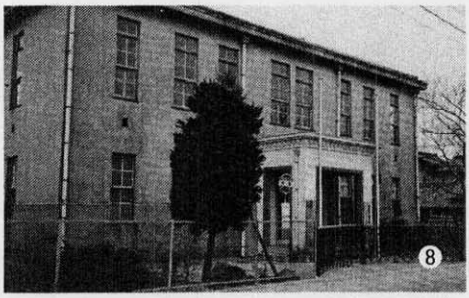
▲旧額田郡物産陳列所（朝日町）



▲旧愛知県立第二中学校講堂（針崎町）

▶岡崎市南部公会堂（柱町）

▶旧岡崎銀行本店（伝馬町）



◀旧大平村役場本館（大平町）

◀名古屋鉄道本宿駅（本宿町）

⑤ **大正6建**　赤レンガと花崗岩を組み合わせたルネッサンス風の建物。戦後、商工会議所として利用されたが、現在は岡崎信用金庫の資料館となっている。

⑥ **昭和5建**　運転免許更新講習会場、選挙投票所等に使用。今は老朽危険な市の倉庫。モルタル塗りの堂々たる柱型、レリーフ彫り、半円アーチの縁飾りなどは見もの。

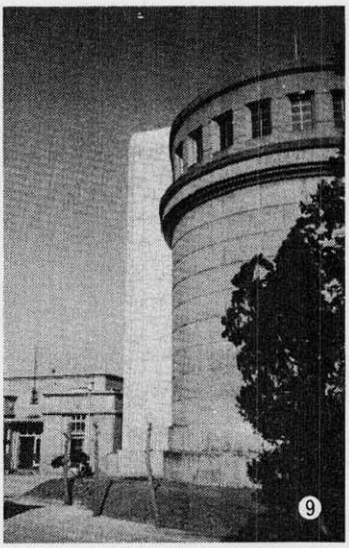
⑦ **大正15建**　当時は平屋建て。蒲郡駅へ抜ける道路のトンネルが通じ、蒲郡ホテルができると、その屋塔に刺激されて八角屋根の塔楼が載せられた。

⑧ **昭和7建**　玄関ポーチの上ののこぎり歯型の装飾がかすかに時代を感じさせるが、全体に直線的な簡素な造りである。白バイ隊が臨時に使用していたが、今は倉庫。

⑨ **昭和8建**　当時の人口7万人に対し昭和40年代には15万人を予想して計画が立てられている。市税総収入の三倍の巨費を投じた大事業であった。

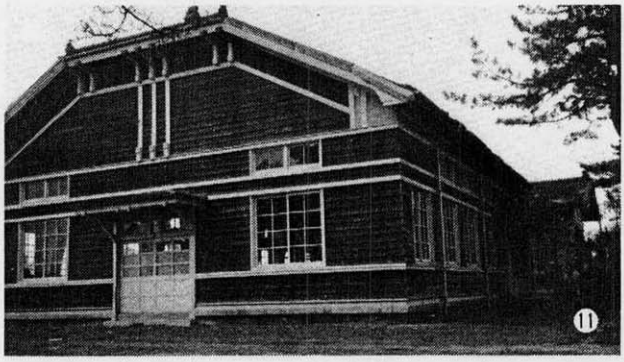
⑩ **昭和9建**　木造総二階の洋館風。門柱上の鉄棒アーチ中央の電灯が昔懐かしい。正面玄関の妻飾には大きい植物形彫刻が目立つ。現在は民謡や詩吟の練習場。

⑪ **昭和10建**　セメント瓦葺きで、頭切りの切妻屋根。一間ごとの柱型が太く内面に張り出し、上へ行くに従ってせり出し梁受けとなる。追進館と呼ばれる記念館的講堂。



▶岡崎市水道局六供浄水場（六供町）

▼旧愛知県追進農場講堂（美合町）



▲旧本宿村役場本館（本宿中町）

●個人研究の部 62年度教育研究論文入選者

応募総数 474 (1)

小学校個人 263 (1) 中学校個人 125
(園) 共同 48 共同 38

最優秀賞

氏名	学校名	教・領	研究主題
石川 貢	常南	特活	気づき、考え、実行する児童集団の形成をめざして
山田一夫	新香山	社会	「社会科＝暗記教科」からの脱却

優秀賞

後藤志津代	梅園	国語	授業の基礎、基本を求めて
明保恵子	美合	〃	楽しく読む —体（五感）を通して—
宮里佳子	連尺	〃	豊かな言葉を生み出すために
野々山こず江	井田	〃	書きつづることにより生活を高めるこどもを目ざして
山田禮子	大樹寺	〃	自ら課題を持って読みを深める子をめざして
高橋由美子	上地	書写	正しく美しい文字を書くための効果的な書写指導
岩附広行	井田	社会	問題意識を持ち続ける調べ学習の実践
梅村京子	愛宕	〃	子どもの側に立った授業の組織化をめざして
板倉登	本宿	〃	子どもの側に立つ授業の組織化をめざして
天野孝悦	〃	〃	郷土素材を取り入れた歴史学習
増沢徹	小豆坂	〃	意欲を持ち自ら調べ追求する社会科学習をめざして
高須亮平	三島	算数	見通しをもち，筋道を立てて考える算数学習
柴田靖子	大樹寺	〃	自ら意欲的に追求する子供の育成をめざして
太田恭子	上地	〃	学級づくりとからみ合わせた算数の授業
小倉敏幸	梅園	理科	問題意識の連続する理科学習
太田末也	広幡	〃	子供の観察記録を生かした単元展開
荻須文裕	美合	〃	自然認識を深める 目に見えない気体を主体的に追う子ども
長坂寿子	井田	〃	めあてをもち辛抱強く追究し考える子の育成
時岡澄江	矢南	〃	楽しく意欲的に学ぶ理科学習
滋野井貴子	山中	図工	個の意欲に支えられた共同製作を求めて
河合安男	愛宕	体育	自分の目標に向かって最善を尽くす態度を育てる体育学習
三浦裕昌	小豆坂	〃	意欲を持って楽しく仲良く取り組む体育学習
中野渡善樹	〃	〃	一人ひとりが意欲的に取り組む体育学習
村上芳巳	梅園	家庭	生活を見つめ体験的に追究する家庭科
佐々木公麿	〃	特活	子どもらがつくる学級会活動
長島洋子	本宿	〃	T君を仲間として認める学級を目指して
金指由香理	大門	〃	認め合い、支え合う学級づくり
倉島千賀子	美合	特殊	共に育ちあう交流教育をめざして
鈴木薫	竜美丘	図書館	本好きな子どもを育てる読書指導
福応節子	矢南	保健	きれいに歯みがきができる子をめざして
岡田豊	河合	国語	一人ひとりの確かな読みを育てる指導
田境行孝	矢作	〃	あらゆる生徒に活躍の場を与える授業
鶴田紀美子	矢北中	〃	楽しい古典学習を求めて
石井洋	〃	社会	社会事象に能動的に働きかける生徒の育成
天野孝志	城北	数学	関数的な見方を養うための題材の工夫とその指導法についての考察
田村康則	六ッ美	〃	わかる・できる授業をめざして
岡部敬子	矢北中	理科	自然の事象の理解を深める理科指導
高木理人	甲山	美術	自主的に製作に取り組む生徒の育成
稲垣幸一	竜海	体育	主体的な体育学習を求めて
三浦みどり	葵	技家	住教育をどう進めるか
柴田輝夫	常磐	道徳	道徳的実践力の育成をめざして
大岡久芳	城北	生活	豊かな心を持った生徒の育成
竹内昭博	矢作	視聴	パソコンを生かした効果的な授業を目指して

佳作

柴田光子	男川	荻野卓寛	男川
稲葉由紀子	羽根	鈴木勘三	本宿
橋本みどり	連尺	三宅祐子	矢東
野勢裕子	福岡	酒井芳宏	城南
山本桂子	藤川	谷川光代	緑丘
鈴木理栄子	大樹寺	四宮和子	竜美丘
岡田せつ子	矢東	太田幹雄	矢南
倉橋正博	六北	野田豊	〃
加藤貞子	小豆坂	柴田秀夫	六北
花村真理子	藤川	糟谷京子	福岡
今枝恭子	岩津	野村美湊	大樹寺
酒井秀明	六北	香村稲子	六南
福応謙一	梅園	葉山栄子	奥殿
近藤昭厚	生平	山本頼永	緑丘
小川真奈美	細川	清水英子	井田
柴田弘子	大樹寺	安藤悦子	恵田
田中俊二	大門	松井伸市	城南
則武幸予子	矢西	野々山宏司	甲山
尾藤広行	〃	太田ひとみ	岩津
石川新史	愛宕	小林直美	美川
蜂須賀渉	大樹寺	中西勉	竜海
天野道晴	井田	都筑祐一	甲山
浅井英之	福岡	山口直純	〃
大姉峰樹	藤川	児玉洋行	六ッ美
本多教江	山中	小泉禎子	竜海
市川敏彦	常磐	三浦弘恵	六ッ美
鈴木武	細川	酒井正子	竜南
吉田章二	大樹寺	原田雅文	常磐
桑木富士子	〃	山本照司	竜海
大島弘子	〃	加藤博史	甲山
金田知子	男川	村松丈行	矢作
鈴木千恵	広幡	木河淳治	竜南
内田ひろみ	常磐	高木和宏	美川
鈴木明	梅園	星野育子	常磐
鈴木章文	根石	大野幾生	葵
中村郁夫	男川	毛受則雄	常磐

●共同研究の部

最優秀賞

現職教育部	生平	教育全	「ふるさと学習」の新展開
第3部会	葵	特活	より確かな学級づくりをめざして

優秀賞

高学年部会	大樹寺	国語	自ら課題を持って読み深める子をめざして
一年部会	北野	社会	効果的に取り組める社会科の授業
授業研究部	三島	算数	「見通しを持ち，筋道をたてて考える能力と態度」をめざす 算数指導
三浦・鈴木・仁藤	小豆坂	音楽	豊かな心を求めて
特殊教育部	連尺	特殊	生活力をきりひらく実践
数学部一年	矢北中	数学	やる気を育てる学習指導
一年部会	南	特活	認め合い励まし合い助け合う生徒の育成
現職教育部	葵	教育全	「やる気」や「思いやり」を育てる教育活動
一年生部会	竜南	〃	為すことによって学ぶ生徒の育成をめざして

佳作

一年部会	山中	研修部	広幡幼
現職教育部	六中	六年部会	細川
二年部会	六北	国語部	六ッ美
六年理科部会	細川	理科部会	岩津
理科部会	大樹寺	体育部	六ッ美
山田靖彦・松井洋子	矢南	英語部	竜南
体育部	井田	道徳部	葵
高学年部会	竜谷	1・2年	河合
保健部	矢東	現職教育部	東海
現職教育部	大樹寺	生徒指導研究部会	葵

米作り

梅園小　小池　剛

「もう、おにぎりなんてどうでもいいよ。」

K男が作業の手を止めて大きな声で言った。すかさずO子が、「だめだめ、絶対に自分たちのおにぎりを作るんだから。」そう言って、K男の目の前にどさっと籾の山を作った。

この籾粒、子どもたちがプランターでやっとのことで実らせたものだ。少し小粒だけれど大切な籾粒である。

五月、社会科の授業で農家の田植えを見学した帰り道S子の「先生、私たちも田植えがしてみたいなあ」のひとことで始まった稲作り。思ったよりも大変であった。

毎日水やりと観察を続けていた夏休み。「先生、稲が枯れちゃうよ」とR男が教室に駆け込んできた。猛暑の中、たった半日でかなりの稲を枯らしてしまった。それからも、農家の人にもう一度稲を分けてもらったりして、何とか稲刈りまでこぎつけた。

「このお米で、おにぎりが何こぐらい作れるかなあ。」

稲を刈りながら、自分たちが収穫したお米でおにぎりを作って食べよう、という計画が生まれた。

脱穀は手で一粒一粒行ったが、全員でやればそれほど時間はかからなかった。ところが、問題は籾すり。いろいろ考えた末、結局これも手でやるしかないということになった。一粒ずつ爪で籾がらを取っていくのだ。十粒の籾がらを取るのに随分の時間がかかってしまう。おにぎり一つ分の米粒を取り出すのは大変な仕事になってしまった。

「もう、おにぎりなんてどうでもいいよ」というK男の言葉にうなずきたいような顔があちらこちらで見られた。でも、S子の「頑張るんだ」のひとことでK男もみんなも気を取り直し、おにぎりめざして籾がら取りの手を動かし始めた。

一年がかりで、やっと自分たちのおにぎりの姿が見えてきた子どもたちにとってお米の一粒一粒のもっている重さが少し大きくなったのではないかと思う。

子どもたちと共に体験することを通して、いろいろと考えていく場を持ち続けたいと思う。

記録への挑戦

葵中　坂本　恒子

始業式の日、真新しい生活ノートと学級通信を生徒に配る。これが、一年間生徒と私をつなぐパイプになるんだなと思いながら、翌日、生活ノート全員提出。次の日も次の日も全員提出。だらしがない学年だと思ってきた私にとって、大きな驚きだった。これに意を強くして「一年間全員提出を続けてみないか」と提案した。おとなしい生徒たちは、黙って私の話を聞いていた。こうして、全員提出へとスタートした。

一か月たった頃「私が一人やめてこの記録を破ってしまおうかな。そうすればノートを出さなくてもいい」とか「一人でも忘れるとみんなに恨まれそうでいやだ」とかいう声がささやかれた。こんな中だるみの生徒を励ますために、掲示係の手で星条旗が作られ、生活ノート提出回数が星の数になっていった。

こうして、前期の生活ノート一冊を終えたところで、生徒会のギネスブックに載せてもらった。この頃になると、もう自然に出すものと決まっていった。

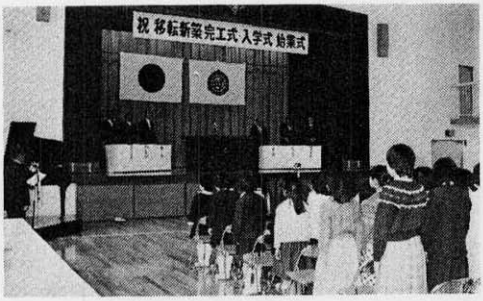
書く内容としては、進路の悩み、勉強の様子、遊び、行事の取り組みに対しての感想、先生への不満、「今日は寒かった」式の一行文など様々だ。中には全く書かないで出す生徒もいる。しかし、どんなノートであっても、できるだけ枠いっぱいに返事を書く。

何しろ、その日のうちに全員の返事を書いて返すのだから、時間との闘いだ。空き時間が一時間しかない、あるいは全くゼロの日もある。そんな日は、どこへ行くにも赤ペンを欠かさない。私があきらめたら、生徒もやめてしまう。そんな思いだけが強い。

「学校で頭にくると、生活ノートの記録を破ってやろうといつも思っていた。でも、今は先生が返事を書いてくれるので、そんな心は捨てようと思う。いや捨てる」こんなノートが、私を勇気づけてくれる。

二月初めには念願の二百回を超え、百個の花をつけた大きなひまわりが完成する。その時には、この三年九組の偉大な記録を、全校に知ってもらおうと計画中である。

一年のあゆみ

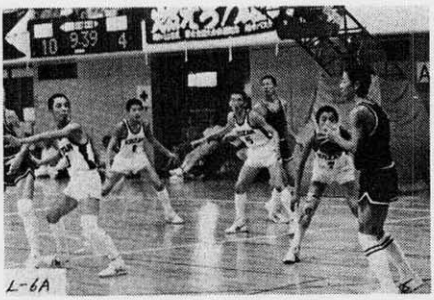


▶安戸町から米河内町へ。常磐東小学校校舎が立派に移転新築なる。（4・3）

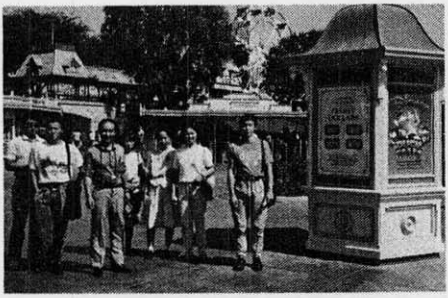
4・1 ●新規採用教員67名辞令伝達式
4・3 ●常磐東小学校校舎移転新築
4・17 ●現職教育委員会総会（竜美丘小）
5・3 ●第14回子どもまつり（菅生川河川敷）
5・24 ●学校環境緑化日本一　広幡小学校
5・31 ●第31回岡崎市中学校総合体育大会
6・25 ●ニューポートビーチ市より中高生4名副校長令嬢来岡
7・1 ●市制施行71周年記念式典で教職多年勤続者21名表彰
7・4 ●昭和62年度岡崎市中学生弁論大会
7・17 ●第40回岡崎市中学校市長杯総合体育大会
7・21 ●岡崎市小学校球技大会開始
7・26 ●第14回岡崎市民大学開講（竜美丘会館）
　松平　康隆（7・26）　中根　千枝（8・9）
　青木　雨彦（8・23）　司馬遼太郎（8・29）
　十返千鶴子（9・6）　齋藤　一夫（9・27）
7・29 ●第25回岡崎市小学校水泳大会
8・3 ●現職教育夏期実技講習会開始
8・13 ●全日本バレーボール小学生全国大会
　三位　竜美丘小学校
8・19 ●全国中学校選抜体育大会
　三位　甲山中学校男子バスケット部
　四位　矢作北中学校水泳競技男子
8・21 ●少年の主張県大会　最優秀賞　篠永　圭子（竜海中）
9・30 ●ニューポートビーチ市へ4名の中学生出発
10・1 ●岡崎市教育委員後藤朋美氏の後任に前川修氏就任
10・4 ●日米教師交換研修　岡崎↕ニューポートビーチ市
10・10 ●第34回市民体育祭（六名公園）
　●第14回技術家庭科作品展（竜美丘会館）
　●第34回理科作品展（竜美丘小）

▶本年度初めての試みとなった中学生弁論大会。多くの人々に感動を与えた。（7・4）

◀各界から著名な講師を迎え開講された第14回岡崎市民大学。（8・29）



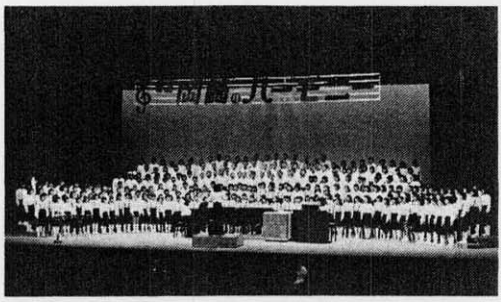
◀全国中学校選抜体育大会。甲山中学校男子バスケット部堂堂の第三位。（8・19）



▶中学生親善使節として、ニューポートビーチ市へ。ディズニーランドでのひととき。（9・30）

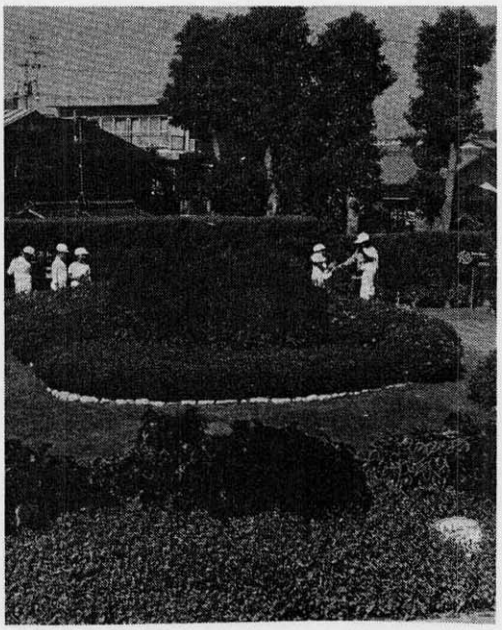
▶子らの力作を一堂に集め、第24回おかざきっ子展を子ども美術館で開催。（10・31）

◀市民会館にて第15回岡崎のハーモニー開催。会場いっぱいに美しい歌声が響いた。（11・23）



10・11	●第20回岡崎市中学校新人総合体育大会
10・21	●第19回中日教育賞　鈴木勘三教諭（本宿小）
10・24	●花いっぱい優良小学校コンクール 愛知県新生活運動協議会賞　福岡小学校 農林中央金庫賞　六ッ美北部小学校
10・25	●第26回岡崎市小学校陸上競技大会
10・31	●第24回造形おかざきっ子展（世界子ども美術博物館）
11・14	●第14回岡崎市教育文化賞 永田精一氏　松井幸彦氏　千賀敏之氏「岡崎文化」編集局　岡崎レクリエーション・リーダーズクラブ
11・21	●第19回岡崎市民マラソン大会
11・23	●第15回岡崎のハーモニー（岡崎市民会館）
11・29	●FBC秋花壇　自治大臣賞＝根石小学校
12・3	●第22回全国鳥獣保護実績発表大会 文部大臣奨励賞　生平小学校
12・4	●全国自作視聴覚教材コンクール文部大臣賞 社会教育部門　視聴覚ライブラリー 小学校部門　三浦重光教諭（常南小）
12・12	●学校体育賞授賞式
12・25	●第36回愛知県長距離継走大会　優勝　東海中Aチーム
12・25	●第14回冬季研修会
12・25	●第21回県教育論文優秀賞　小倉敏幸教諭（梅園小） 兵藤悦子教諭（大門小）佳作4点
1・20	●第31回市内小中学校書き初め展
1・23	●第4回岡崎市小中学校作文コンクール表彰式
1・24	●第39回岡崎市民駅伝大会　優勝　東海中Aチーム
2・19	●読書感想文表彰式
2・20	●東海三県学校図書館奨励賞 部門優秀賞　連尺小学校　奨励賞　美合小学校

◀根石小学校が美しい花壇を完成。FBC秋花壇で自治大臣賞受賞。（11・29）



▶生平小学校が第22回全国鳥獣保護実績発表大会において文部大臣奨励賞受賞。（12・3）

◀年の初めに思いを込めて…。市美術館で第31回市内小中学校書き初め展開催。（1・20）

昭和62年度の研究発表校

発表月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料（研究物・講師・助言者）
6月9日	竜谷小	体育	自らの高まりを求め、学習に取り組む子の育成をめざして	「工夫する」「創りだす」「考える」などの創造的活動から生ずる「運動の楽しさ」を学習の中心課題として、児童がともに助け合い、教え合うことによって自らの高まりを追求する体育学習の実践を推進した。	研究物「自らの高まりを求め、学習に取り組む子の育成をめざして」 — 運動や遊びを工夫し，共に励む体育学習の実践 助言者　愛教大　天野彰夫先生
10月20日	梅園小	教育全般	学習指導法の研究 — 授業の基礎・基本 — （中間発表）	学習指導案の作成・研究授業・日頃の授業を通して、授業の基礎・基本を身につけ、子どもの主体的な学習を育てる。全教科・領域を対象に、授業研究と総合的な教育活動を進める。基礎的・基本的事項の定着をはかる。	研究物「学習指導法の研究 — 授業の基礎・基本—」 講　師　岡崎女子短大　内田松夫先生 助言者　同　上
10月27日	細川小	社会・理科	自ら調べ、磨き合い、生きる学習の建設 — ひとり調べを生かす効果的な磨き合いを求めて —	社会科・理科を研究の窓口として「ひとり調べを生かす効果的な磨き合い」を研究の中心においた。それぞれの教科・学年に適した4段階の構成と基本の形を設け、子供たちの自主的な学習への取り組みをはかった。	研究物「自主・創造・健康」 理科のひとり調べ「ほそかわの自然」 助言者　愛教大　松井貞雄先生 愛教大　川上昭吾先生
11月10日	城南小	道徳	心豊かに生き生きと活動する城南っ子の育成 — 資料を生かした楽しい道徳の授業を中心にして—	読み物や視聴覚資料を使った楽しい道徳の授業のあり方を求め実践研究をした。資料の提示や活用の仕方、動作化や役割演技、発問の吟味、価値観の類型化など多様な指導法の研究。全体計画の見直しと年間指導計画作成。	研究物「心豊かに生き生きと活動する城南っ子の育成」「道徳年間指導計画」 助言者　内田松夫先生（低学年部会） 千田水城先生（中学年部会） 山本　昇先生（高学年部会）
11月13日	小豆坂小	学校体育	健やかで活力あふれる子どもの育成を目ざして — 一人ひとりが生き生きと取り組む体育学習 —	一人ひとりに意欲を持たせ「できた」という喜びと自信を持つ授業を成立させるために，個人カード等で自己の目標と同時に自己評価できる場を設定した。業間運動の時間を設定し，授業を深め，生活化をはかる。	研究物　研究紀要 講　師　愛知教育大学教授 愛知教育大学附属岡崎小学校長 丸地八潮先生 助言者　愛知県教育委員会　山内　滿先生
11月17日	大樹寺小	国語・社会・算数・理科	自ら学ぶ意欲をもち追求する子どもをめざして — 国語・社会・算数・理科を中心として —	子どもたちが、学習対象に接して学んでいく過程に視点をおき、子ども自らの力で課題を追求し、工夫し、解決していく「子ども自ら追求する学習」の研究と実践。自己教育力と本校がめざす「自立の心」の育成と実践。	研究物　研究紀要、「樹人」教師の記録、学習指導案 講　師　岡崎女子短大学長　石川　勤先生 助言者　高木良和先生、長坂則彦先生 杉山隆之先生、深津武司先生
11月27日	矢作幼稚園	健康	運動あそびに自ら進んで取り組む子を求めて — 日常保育の中で運動あそびをとおして —	運動あそびのとらえ方を①情緒の面②感覚の面③仲間関係の面④認識の面の4点にしぼり、それぞれをノーマルな育ちにしていくには、子どもとのかかわりの中で、どのような示唆・助言が必要かを明らかにしていった。	研究物「運動あそびに自ら進んで取り組む子を求めて」 講　師　岡崎女子短大　竹本　洋先生 助言者　岡崎女子短大　竹本　洋先生 岡崎市立奥殿小長　成田邦彦先生
12月1日	東海中	特活	人間性豊かな生徒の育成 — 心身障害児の理解と認識を通して —	県立岡崎養護学校の生徒との交流を通して人間理解と連帯を深める実践をした。授業での理解認識と実際のふれあいとを連動させて研究を重ねた。生徒の心の中に、他人への思いやりと自己認識の芽生えがみられた。	研究物　研究報告書 公開授業案綴 資料集 助言者　愛知県教委特殊教育課主査 真木利貢先生
1月22日	葵中	特活	「やる気」や「思いやり」を育てる教育活動 — 受容的な学級づくりを基盤にして —	明るく、楽しく、思いやりに満ちた学級づくりをするために、特活・道徳・生徒指導の充実を図ると共に相互の有機的なつながりをどのように図ればよいかを実践検証した。	研究物　研究紀要 分科会資料（第1部会～第4部会） 講　師　岡崎女子短大　内田松夫先生 分科会講師　藤井孝弘先生、畔柳吉朗先生 金子一元先生、遠山真吉先生
2月9日	常磐東小	教育全般	一人ひとりに自信と喜びをもたせる個別化・個性化教育	学習を個別化し，無学年制を取り入れた「はげみ学習」の実践からはじめ、自己教育力を育てるために単元プログラム学習・総合的学習・オープンタイムの学習など七つの学習形態を通して実践の一端を報告した。	研究物　研究紀要、指導案綴 著書「個別化，個性化教育の第一歩」 講　師　上智大　加藤幸次先生 助言者　国立教育研究所室長　高浦勝義先生 司会者　市教委　稲垣　博主事
2月27日	三島小	教育課程・算数	見通しをもち、筋道を立てて考える能力と態度の育成	文部省教育課程研究（算数）指定。第1年次では、教育課程改善の基本方針に基づき、算数授業のあり方や算数基本問題を中心に研究した。生活科・豊かな心・たくましい体づくりについても実践研究をした。	研究物　第1年次　研究紀要 講　師　文部省教科調査官　清水静海先生 愛教大　柴田録治先生 助言者　小林和光先生　深津　浩先生 三浦鎌次先生　筒井一夫先生

お知らせ

学校図書館奨励賞

連尺小に部門優秀賞

昭和六十二年度東海三県学校図書館奨励賞（東海三県教育委員会等主催）の表彰式が、去る二月二十日名古屋市で開催された。

岡崎市からは、連尺小学校が図書館の拡大・機能化・整備に取り組んできた成果が評価され資料整備部門で部門優秀賞に選ばれた。また、美合小学校も奨励賞を受賞した。

■管楽合奏全国一位に竜美丘小

昭和六十二年度こども音楽コンクール文部大臣奨励賞選考会が二月十四日東京で開かれ、全国七ブロックから選ばれた最優秀校の演奏をテープ審査。その結果管楽合奏の部で竜美丘小学校が文部大臣奨励賞に選ばれた。

【寄贈刊行物・資料等】

◆個別化・個性化教育の第一歩―小学校における「はげみ学習」の実際―野村鉦吉・常磐東小著　A5　二二〇ページ

◆算数・数学指導の手引「アイデア集」現職教育算数・数学部　B5　六九ページ

■県自作視聴覚教材コンクール

昭和六十二年度県自作視聴覚教材コンクール表彰式が去る二月十九日、県教育センターで行われた。岡崎市からは十作品が応募され、八作品の入賞を得た。

▽優秀賞
- 鬼祭り（ビデオ）
  AVL・現職教育社会科部

▽優良賞
- 一色のうなぎ養しょく（ビデオ）
  AVL・現職教育社会科部
- 内田さんのぶどう作り（ビデオ）
  AVL・現職教育社会科部
- 矢師（八ミリ）　AVL

▽佳　作
- しめ縄作り（ビデオ）
  AVL・現職教育社会科部
- 岡崎にもマグマがあった（ビデオ）　現職教育理科部
- 佐久島を作った海（ビデオ）
  現職教育理科部
- EXCUSE ME（ビデオ）
  現職教育英語部

■昭和六十三年度研究発表校

城南小（道　徳）	63・6・10	羽根小（特活JRC） 63・11・22
男川小（全教科）	63・6・21	北野小（社　会） 63・12・2
葵　中（特　活）	63・10・7	愛宕小（特　活） 64・1・27
竜谷小（体　育）	63・10・14	根石小（図書館） 64・2・10
梅園小（全教科・領域）	63・10・25	
三島小（算　数）	63・11・4	
福岡中（全教科）	63・11・11	
小豆坂小（体　育）	63・11・18	

■昭和六十三年度岡教組役員

委員長	岡安　信彦（岩津中）	書記次長	松井　伸市（城南小）
副委員長	川瀬　哲夫（美川中）	組織部長	石川　守彦（葵　中）
書記長	神尾　昌彦（広幡小）	情宣部長	鈴木　栄二（矢作中）
		教文部長	大岡　久芳（城北中）
		副対部長	岩月　茂仁（竜美丘小）
		調査部長	安杖　康則（河合中）
		会計委員	小林　義孝（甲山中）
		青年部長	上原　健次（南　中）
		婦人部長	山田　一恵（竜海中）

昭和62年度 岡崎市中学校陸上・水泳最高記録

○印　新記録
△印　タイ記録

陸上競技

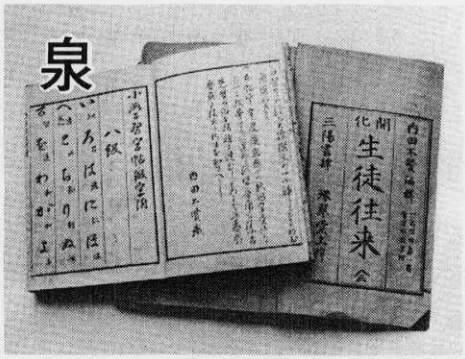
性	種　目	氏　名	校名	記　録
男子	1年 100m	大久保和則	南	12″1
	100m	清水　昭男	福　岡	11″4
	200m	酒井　浩之	葵	22″91
	400m	尾崎　紀佳	竜　南	52″5
	800m	蜂須賀　淳	竜　南	2′02″7
	1・2年1500m	柴田　英喜	福　岡	4′19″7
	3000m	柴田　英喜	福　岡	9′25″2
	110m H	石川　義弘	矢　北	15″7
	4×200m R	尾崎，志賀 稲石，尾崎	竜　南	1′36″0
	低4×100m R	小島，大久保 井本，今泉	南	48″3
	走高跳	志賀　充	美　川	1.90
	棒高跳	岸　義昭	美　川	○ 3.85
	走幅跳	佐藤　俊彦 清水　克真	城　北 竜　海	6.44
	砲丸投	純浦　好美	矢　作	13.64
	三種競技A	純浦　好美	矢　作	○ 3019点
女子	1年 100m	鳥居　紀子 戸田かおる	矢　作 六ッ美	13″6
	100m	原田　実保	矢　作	13″0
	200m	安沢　真理	新香山	26″7
	800m	青山まさ子	美　川	2′25″0
	100m H	鈴木　優子	福　岡	△ 15″0
	4×100m R	清水，山田 鈴木，永田	矢作北	53″4
	低4×100m R	天野，市川 戸田，長谷部	六ッ美	○ 52″6
	走高跳	神谷　美貴 大野砂弥香	甲　山 南	1.50
	走幅跳	杉浦千絵美	葵	5.39
	砲丸投	津下　恵花	美　川	11.95
	三種競技A	大野砂弥香	南	2554点

水泳競技

性	種　目	氏　名	校名	記　録
男子	100　自	鴨下　剛	矢作北	○ 56″68
	200　自	香村　州寛	甲　山	2′13″26
	400　自	菅田　義昭	矢作北	4′41″20
	100　平	渡部　修	葵	1′10″78
	200　平	渡部　修	葵	2′35″08
	100　背	田尻　和仁	矢作北	1′10″67
	200　背	加藤　公成	城　北	2′34″9
	100バタ	鴨下　剛	矢作北	○ 1′01″8
	200バタ	田尻　和仁	矢作北	2′25″23
	200個メ	鴨下　剛	矢作北	○ 2′18″96
	400混R	田尻・仙石 鴨下・菅田	矢作北	○ 4′25″81
	400　R	鴨下・仙石 田尻・菅田	矢作北	○ 3″57″78
女子	100　自	小里日奈子	葵	○ 1′02″7
	200　自	小里日奈子	葵	2′15″76
	400　自	岡田　恵子	矢作北	4′56″8
	100　平	青木　磨里	矢作北	○ 1′21″06
	200　平	杉浦　琴美	矢　作	2′55″75
	100　背	鈴木　麻日	甲　山	○ 1′14″5
	200　背	中村　公子	葵	○ 2′42″61
	100バタ	岡田　治子	矢作北	1′11″2
	200バタ	川原場仁子	岩　津	2′36″47
	200個メ	岡田　治子	矢作北	○ 2′36″2
	400混R	中村・高橋 小里・榊原	葵	○ 5′00″5
		中根・青木 岡田・岡田	矢作北	○ 5′00″56
	400　R	小里・黒柳 中村・榊原	葵	○ 4′25″11

開化 生徒往来

内田不賢編輯



岡崎市本町通　ほんぷん書店

「開化生徒往来」は、内田不賢編輯、環翠堂（ほんぷん）出版の習字手本である。明治十一年に出されているので、学制が明治五年にしかれてからすぐのことである。

写真左には、その第一ページがみえているが、八級でかなをならい、七級で数字等、順次難しい漢字が並んでいる。一級は草書で手紙文をかけるまでになっている。

不賢は、当時習字用のテキストに相当力を入れていたようで、このほかにも、明治六年から二十年間に何冊かの手本を出している。「作字必須」（明治六年）「小学習字帖」全八冊（明治九年）、「初等小学習字帖」全六冊（明治十六年）、「環翠用文大成」志賀重昂序文（明治二十七年）等、精力的に書いている。

「岡崎文化」七号には、神谷葵水氏が不賢について「単に三河の『水茎の岡崎人』であったばかりではなく、実は、広く天下に聞こえたすぐれた書人であった点について、見直してみたい」と述べられている。

・表紙写真　男川小
・表紙詩　男川小　平国勇造
・カット　福岡小　柴田光子
　　天野しのぶ

この本を

＊「カミさんと私」の物語　土岐雄三
新潮社　¥1100

＊日本語で一番大事なもの　大野晋 丸谷才一
中央公論　¥1500

＊ペレストロイカ　ゴルバチョフ
講談社　¥1600

＊黄色い髪　干刈あがた
朝日新聞社　¥1200

※教師の心・教師の顔　上寺久雄
教育開発研究所　¥1800

教育に対する関心が高い今日、教師に対する世間の期待はまことに大きい。この期待に応えるために，教師はいっそうの正襟が大切である。

本書は著者が「現代教師論―教育道・授業道を求めて―」の姉妹書として、教師について語った小論をまとめたものである。新任教師からベテラン教師に至るまで、教師は如何にあるべきか、著者の考えが随筆的に綴られており読み易い。

オアシス

〝おしくらまんじゅう　おされてなくな〟

白い息を吐きながら寒さをしのいだ冬の遊びもとんと見掛けなくなった。押し合いへし合う中で友の温もりを感じ取ったものである。ファミコンが幅を利かせ、温かいこたつの中で一人ゲームに興じる子供たちを外に出したいと思うのは私だけではあるまい。

「試験」とは、「及落や採否を決めること」。かつては進級試験、卒業試験に及第すべく全精力を注いだので、「大試験」とも言われた。

年度末がきた。子供たちの夢は未来へと膨らむ。一年間の指導を厳しく自己反省し、一人ひとりを生かすための評価・評定のあり方を究明したいものである。

「赤ちゃんが生まれたの。」

教室に入って来るなり、A子が息を弾ませて知らせに来た。子沢山だった昔に比べて、学齢に達してから、弟や妹の誕生に出会うことは珍しい。

朝の会での話題の中心は彼女。友達の羨望の的になって、ちょっと恥ずかし気であった。

硯を洗い清めて墨をする。墨の香りに心をなごませながら筆をとる。こういう落ち着いた時間がすくなくなってきた。今は、キャップをとりさえすれば、すぐに字が書きだせる筆ペンがある。子どものために遅くまで手づくりの教具とたたかうことをやめ、市販教具ですませる姿に似ている。